

1. 輸出における現状と課題

【現状】

当コンソーシアムは牛肉の輸出拡大に資することを目的に活動しており、生産者、食肉処理施設、輸出事業者等で構成している。令和3年度から牛肉販路拡大のために構成員が一体となって取り組む畜産物輸出コンソーシアム推進対策事業等に取り組んでいる。

鹿児島県は肉牛・肉豚共に全国一の飼養頭数を誇り、サンキョーミートでは志布志市のみならず、県内各地から幅広く生体牛・豚を集荷している。県内の飼養頭数の多さは、輸出先国の求める部位とグレードを取りそろえる上で有利であり、この有利性を活かし新たな需要を開拓する目的で輸出を開始した。

平成14年に米国向け牛肉輸出認可を取得し、その後も対香港、対EUの輸出認可を取得するなど、牛肉輸出が可能な国のうち、イスラム圏以外の全ての国の牛肉輸出認可を取得している。また、豚肉に関しても平成10年に香港向け認可を取得したのを皮切りに、シンガポール・タイ・ベトナムの4か国の輸出認可を取得している。

【課題（牛肉）】

- ①血斑の問題は認識しているものの、原因の特定化にまで至っておらず今後も改善に向け検証が必要。
- ②生体出荷に際しては、鼻環を使わずに牛を誘導する事が求められているが、手間がかかる事と作業に危険を伴うことから一部同意が得られていない。
- ③高付加価値製品及びロイン以外部位の販売。
- ④航空便輸送（チルド）は物流効率（積載量が少ない）が悪くかつ高コストとなる。そのため米国向けの冷凍肉は海上便輸送を推奨しているが、コンテナ確保が容易でない等、利用に制限が多い。
- ⑤EU向けは、航空便輸送（チルド）となるため、物流効率が低くかつ高コストとなる。
- ⑥台湾：ロイン以外部位の販売、フルセットで販売するための細かいニーズに応じていく必要があるが、作業が煩雑となり効率が悪い。
- ⑦台湾・香港：海上便輸送は小口ビジネスには向かず、海上輸送可能となるまで物量が必要となり、その在庫管理の手間、コストで負担が増加する。
- ⑧香港：和牛同士で価格競争が起こっている。

【課題（豚肉）】

- ①令和5年9月以降豚熱により輸出が停止した。再開に備え、体制を維持する必要がある。

2. 輸出事業計画の取組内容

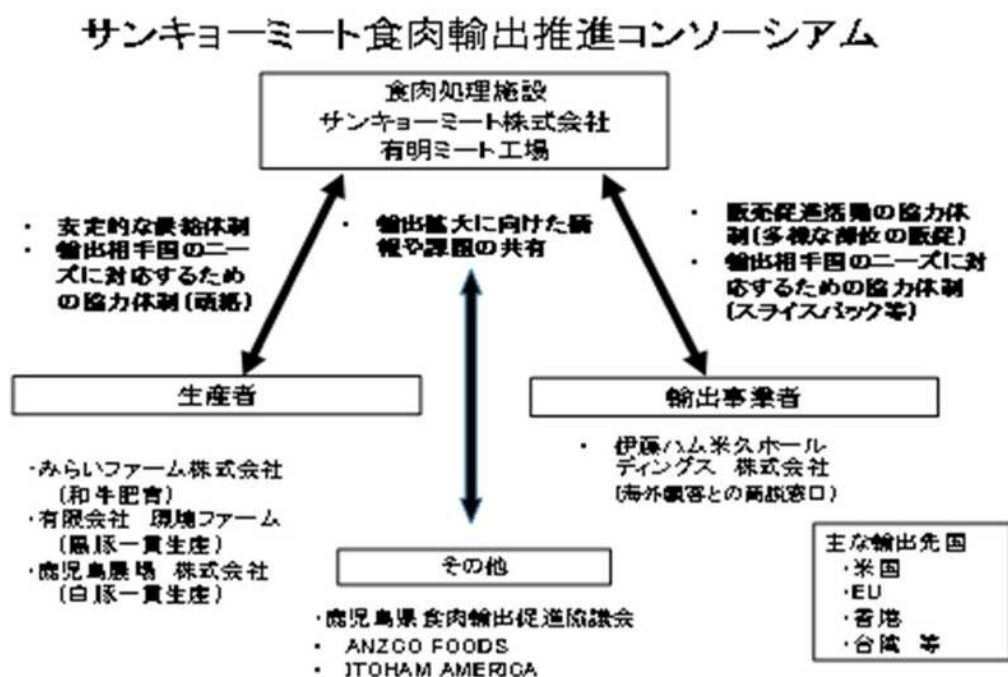
【取組み（牛肉）】

- ①と体バットを稼働式にすることにより放血までの所要時間短縮を実現し血斑（シミ）発生の抑制を図る。
- ②生産農家へ頭絡の必要性を継続して説明することでさらなる理解醸成を図り、着用率の増加を図る。
- ③新規アイテム（ポーションカット（ステーキ肉、焼肉用）製品、骨付き部位）を開発する。
- ④米国向けコンテナ確保のため、輸出計画を前倒し、定期的な発注を行う。
- ⑤EU向け発注に対し、まとめて製造、輸送ロットを大きくして対応する。
- ⑥台湾：新規アイテム開発及び人員を増やす等、細かなニーズに対応できる体制を整備する。
- ⑦台湾・香港：自社輸出対応でなく国内荷渡し契約で負担面のリスクを回避する。
- ⑧香港：安価な部位（肩ロース、三角バラ）など価格競争できる新アイテムの提案や使い勝手の良い部位の販売を推進する。

【取組み（豚肉）】

- ①随時情報収集を行い、コンソーシアム内で情報共有するとともに、定期的な豚肉輸出事務手順の振り返り確認を行うことにより輸出再開時に迅速に対応できる体制を維持する。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

牛肉	現状 (令和4年)	目標 (令和7年)
輸出額（千円）	4,102,000	5,480,000
輸出货量（t）	550	720
輸出先国	米国・EU・香港・台湾・その他	同左

豚肉	現状 (令和4年)	目標 (令和7年)
輸出額（千円）	55,500	72,000
輸出货量（t）	38	49
輸出先国	香港・シンガポール・タイ	シンガポール